



# ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ROTOBO

2025年(令和7年)11月25日号 No.2008

## 目次

■ 2025年上半期のロシア極東港湾の貨物量	1
■ 『ロシアNIS調査月報』2025年12月号のご案内	8
■ トピックス	9
総務省、アゼルバイジャンでデジタル接続性強化に関するセミナーを開催／9	
モスクワでSCO首相会合／9	
アルメニアとの新租税条約が発効へ／9	
アークエッジ・スペース、タジキスタンと共同研究覚書を締結／9	

## 2025年上半期のロシア極東港湾の貨物量

### 解説

経済速報2025年10月5日号(No.2003)では、ロシア港湾の取扱貨物量の2025年上半期の実績を紹介した。今回はロシア極東港湾の実績を図表にまとめてお届けする。

2025年上半期のロシア極東港湾(サハ共和国およびチュコト自治管区を除く)の取扱貨物量は1億1,870万tで、前年同期と比べ1.6%増加した。このうち、ドライカーゴが7,838万t(+3.2%)、液体カーゴが4,032万t(-1.3%)だった。

コンテナや石油製品が減少したものの、鉱石や鉄鋼が増加し、石炭、原油、液化ガスは前年同期並みの水準を維持したことで、全体としてプラスを確保した。なかでも、石炭は5,756万tで5.8%増となった。

取扱貨物量は、アジア太平洋地域との関係強化を背景に、コロナ禍の影響を受けた2020年も、戦争と制裁下の2022年と2023年も、一貫して増え続けてきた。しかし、2024年は、制裁強化の影響から、わずかながら前年を下回った。2025年上半期は、ロシア全体の港湾取扱量が減少に転じる中、水域別では唯一前年を上回った。四半期別にみると、第1四半期は、前年同期と比べ伸び率が0.1%、第2四半期が3.0%となり、3期連続のプラスとなった。

ドライカーゴでは、鉱石が124万t(+22.9%)と大幅増。鉄鋼は151万t(+10.1%)、非鉄金属は53万t(+34.8%)、穀物は5万t(+38.9%)、RORO貨物は32万t(+23.8%)と軒並み好調だった。

一方、コンテナは1,202万t(-6.8%)、梱包貨物は86万t(-19.7%)、木材は53万t(-14.6%)、魚・水産加工品は32万t(-4.8%)と減少が目立った。